

**2021年春闘にむけて学習討論集会****#生活補償に税金まわせ**

北海道春闘共闘主催の「2021年春闘学習討論集会」が12月6日に札幌市内で開かれました。今回の集会はオンライン併用で道内50か所と結んでの開催となり、上智大学教授の中野晃一さんの記念講演「コロナ禍における政治的課題と労働組合の役割」で学ぶとともに、出口憲次事務局長から提起された春闘方針案にもとづき10人が発言しました。2021年春闘では、たたかひの構えとして「#生活補償に税金まわせ」の要求を前面に掲げて、組合員だけでなく市民各層の中での大合流をつくり出すことが強調されました。

**函館運送 年末一時金 2.364 か月分で妥結  
=539,609円**

函館運送支部は12月2日に年末一時金闘争を妥結しました。妥結内容は、本採用=2.364か月分・539,609円（前年比+0.203か月・54,058円）で、58歳到達者=1.891か月分・443,969円/東京嘱託=1.891か月分+15,000円/臨時従業員=1.655か月分+30,000円・290,613円/60歳到達者=120,000円です。

第1次回答（11月27日）では、「コロナ禍での精神的・金銭的な不安を考慮した」として本採用2.351か月分（536,642円）など前年実績を上回る内容が示され、翌日昼の組合員集会では「臨時従業員の退職金の改善」などの意見が出されました。12月1日の第2次回答で上積みがされ、会社からは「一時金の増額ではなく月々の賃金で皆さんの満足できるようにしたい」などの考えも示されました。

**JR北海道が線区別収支とアクションプランの取り組みを報告**

北海道鉄道本部は12月2日の団交で、JR北海道から2020年度第2四半期の「線区別の収支とご利用状況」について説明を受け、続いて沿線住民と一体となって線区の活性化に取り組んだ「アクションプラン」の状況が報告されました。

収支については新型コロナウイルス感染拡大の影響から営業損失が380億円を超え、このうち札幌圏が半分を超える状況です。また、鉄道の利用促進につながるよう取り組む「アクションプラン」については、新型コロナウイルス感染拡大により計画していたイベントが中止になっているが、7月からの釧路湿原ノロッコ号と富良野・美瑛ノロッコ号の運行開始やロイヤルエクスプレスの運行に際して地域の皆さんが歓迎の「おもてなし」をおこなってくれた状況が話されました。

竹田委員長は、厳しい状況の中でも懸命に安全安定輸送に奮闘する社員と支える家族の不安を払拭するために「政府による次年度以降の支援の在り方」を国土交通省が示すよう求めて、「営業損失の補填」をはじめコロナ禍による困難な状況のもとでも沿線自治体・住民の皆さんが「鉄道を残す」ために取り組んできている「アクションプラン」に応えるために、一日も早く政府の責任で「北の鉄道への支援」を明らかにするよう引き続き奮闘するよう会社を激励しました。